



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月4日

上場会社名 株式会社 極洋 上場取引所 東
コード番号 1301 URL <https://www.kyokuyo.co.jp>
代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）井上 誠
問合せ先責任者（役職名）常務取締役（氏名）檜垣 仁志 TEL 03-5545-0703
半期報告書提出予定日 2025年11月7日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	155,996	11.0	4,555	△16.6	4,172	△21.5	2,814	3.9
2025年3月期中間期	140,565	11.5	5,464	36.7	5,315	28.3	2,709	10.5

（注）包括利益 2026年3月期中間期 5,201百万円（41.4%） 2025年3月期中間期 3,678百万円（△2.1%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	237.00	—
2025年3月期中間期	228.16	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	200,027	71,992	35.2
2025年3月期	182,125	68,355	36.5

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 70,404百万円 2025年3月期 66,515百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	—	—	130.00	130.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	150.00	150.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	350,000	15.6	12,500	12.8	12,500	15.1	8,200	21.7	690.38

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 —社 (社名) 、除外 —社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期中間期	12,078,283株	2025年3月期	12,078,283株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	200,944株	2025年3月期	200,852株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2026年3月期中間期	11,877,369株	2025年3月期中間期	11,877,476株

注) 当社は業績連動型株式報酬制度を導入しており、期末自己株式数には当該信託口が保有する当社株式が含まれております。また、当該信託口が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は2025年11月10日に機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	P2
(1) 当中間期の経営成績の概況	P2
(2) 当中間期の財政状態の概況	P3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	P4
(1) 中間連結貸借対照表	P4
(2) 中間連結損益及び包括利益計算書	P6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	P8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	P9
(継続企業の前提に関する注記)	P9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P9
(セグメント情報等の注記)	P10
(重要な後発事象)	P10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得の改善で景気が緩やかな回復基調を維持した一方で、家計消費は物価上昇圧力のもと、慎重な動きとなりました。加えて、急激な為替変動や不安定な世界情勢など、先行き不透明な状況が続きました。

水産・食品業界におきましては、国内では旺盛なインバウンド需要を背景に、飲食サービス産業は底堅く推移したものの、食料品の値上げが続くことによる消費意欲の低下など、厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中で、中期経営計画『Gear Up Kyokuyo 2027』（2024年度～2026年度）の2年目として、「魚を中心に、食で人と暮らしと地球によりそう サステナブルな世界へ」という企業パーパスのもと、「事業基盤」の拡充、「財務基盤」と「ステークホルダーとのパートナーシップ」の強化を進め、目標達成に向け取り組んでおります。

当中間連結会計期間における当社グループの売上高は1,559億96百万円（前年同期比11.0%増）、営業利益は45億55百万円（前年同期比16.6%減）、経常利益は41億72百万円（前年同期比21.5%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は28億14百万円（前年同期比3.9%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

①水産事業セグメント

サバは世界的な需要の高まりを背景に、三国間貿易、輸出販売とも伸長し、売上・利益が増加しました。ホタテは市況高騰により、国内の販売量は減少しましたが、単価上昇で売上が伸長しました。輸出においては高値圏でも旺盛な需要に支えられ、子会社の加工品を中心に販売数量、売上とも好調に推移しました。

そのほか国内販売においては、高額商材の魚卵やカニの販売が拡大しました。一方で、主力魚種のサケは、高値による荷動き低下で市況が下落し、売上、利益とも落ち込みました。エビは円安による加工品の価格上昇が需要低迷を招き、昨年並みの売上となりました。

海外事業においては、輸出事業は国内で加工したホタテ製品の販売が順調に進んだことに加えて、イワシなど青物の販売が好調に推移しました。海外現地販売は、欧州では連結子会社化した2社が売上に寄与し、タイの子会社が製造する寿司種の販売が、日系外食チェーン向けに拡大しました。また、米国、中国においても売上が前年同期を上回りました。

この結果、売上は前年同期を上回りましたが利益は前年同期を下回りました。水産事業セグメントの売上高は872億30百万円（前年同期比17.1%増）、営業利益は26億67百万円（前年同期比15.2%減）となりました。

②生鮮事業セグメント

マグロは相場上昇局面で冷凍クロマグロ、メバチ、キハダや加工品の販売が伸長し、売上・利益とも拡大しました。カツオを漁獲する海外まき網事業は、漁獲量の低迷により売上が減少し、利益が落ち込みました。養殖事業については、国産養殖クロマグロは品質的な優位性を背景に取引先との取組み強化を図り、販売が拡大しました。

寿司種を中心とした生食商材は、回転寿司向けの販売が回復する中で、自社工場製品の拡販も進み、売上が改善するとともに、利益が拡大しました。

この結果、売上は前年同期を上回りましたが、利益は前年同期を下回りました。生鮮事業セグメントの売上高は343億24百万円（前年同期比7.1%増）、営業利益は14億91百万円（前年同期比9.4%減）となりました。

③食品事業セグメント

業務用冷凍食品は、骨なし切り身などの一部製品において、海外廉価品との価格競争が激化し、販売が減少しました。一方で、新商品投入や販売ルートの開拓により、カニ風味かまぼこ、水産フライ製品などの自社工場製品の販売が伸長したことで、売上・利益が改善しました。

市販用冷凍食品は、水産原料価格の上昇に伴う価格改定により、煮魚・焼魚製品の販売が鈍化したほか、コンビニエンスストアの中食向け水産素材の販売が減少し、売上・利益が落ち込みました。

缶詰は、サバ缶、マグロ缶の販売拡大の一方で、カツオ缶、イワシ缶の販売は減少し、売上は前年同期並みとなりましたが、価格改定効果などにより、収益は若干改善しました。おつまみ・珍味製品については、イカの原料高に伴う値上げにより、販売数量が減少し、売上・利益とも減少しました。

この結果、売上は前年同期を上回りましたが、利益は前年同期を下回りました。食品事業セグメントの売上高は333億25百万円(前年同期比1.3%増)、営業利益は12億13百万円(前年同期比14.2%減)となりました。

④物流サービスセグメント

冷蔵倉庫事業においては、入庫数量の増加により売上が伸長しました。利用運送事業は、経費上昇を反映した価格改定などにより、利益が改善しました。

この結果、売上は前年同期を下回りましたが、利益は前年同期を上回りました。物流サービスセグメントの売上高は8億27百万円(前年同期比1.3%減)、営業利益は1億54百万円(前年同期比2.3%増)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ179億1百万円増加し、2,000億27百万円となりました。

流動資産は、棚卸資産が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ131億40百万円増加し、1,474億1百万円となりました。固定資産は、前連結会計年度末に比べ47億60百万円増加し、526億25百万円となりました。

負債合計は、短期借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ142億65百万円増加し、1,280億35百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ36億36百万円増加し、719億92百万円となりました。

この結果、自己資本比率は35.2%(前連結会計年度末比1.3ポイント減)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想に関しては、2025年5月12日に公表した業績予想から修正は行っておりません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,514	8,071
受取手形及び売掛金	36,935	42,592
棚卸資産	75,358	85,646
その他	14,463	11,101
貸倒引当金	△10	△10
流動資産合計	134,260	147,401
固定資産		
有形固定資産	28,588	27,866
無形固定資産	1,965	1,683
投資その他の資産		
投資有価証券	14,053	18,664
繰延税金資産	560	745
その他	4,293	5,259
貸倒引当金	△1,596	△1,593
投資その他の資産合計	17,310	23,075
固定資産合計	47,865	52,625
資産合計	182,125	200,027

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,004	12,754
短期借入金	28,770	39,738
コマーシャル・ペーパー	15,000	20,000
未払法人税等	2,383	1,707
引当金	1,167	1,218
未払金	10,618	7,570
その他	7,049	7,171
流動負債合計	74,995	90,160
固定負債		
長期借入金	35,604	32,964
繰延税金負債	1,749	3,366
引当金	286	331
退職給付に係る負債	775	835
資産除去債務	16	16
その他	342	359
固定負債合計	38,774	37,874
負債合計	113,769	128,035
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,527	7,527
資本剰余金	3,265	3,265
利益剰余金	47,725	48,986
自己株式	△616	△616
株主資本合計	57,902	59,162
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,326	9,484
繰延ヘッジ損益	△77	106
為替換算調整勘定	1,425	723
退職給付に係る調整累計額	938	927
その他の包括利益累計額合計	8,613	11,241
非支配株主持分	1,840	1,588
純資産合計	68,355	71,992
負債純資産合計	182,125	200,027

(2) 中間連結損益及び包括利益計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	140,565	155,996
売上原価	121,736	136,128
売上総利益	18,828	19,868
販売費及び一般管理費	13,363	15,313
営業利益	5,464	4,555
営業外収益		
受取利息	11	42
受取配当金	122	170
持分法による投資利益	12	—
その他	247	244
営業外収益合計	393	456
営業外費用		
支払利息	339	591
持分法による投資損失	—	0
為替差損	128	170
その他	73	77
営業外費用合計	542	839
経常利益	5,315	4,172
特別利益		
固定資産処分益	2	65
国庫補助金等収入	3	216
投資有価証券売却益	14	13
特別利益合計	20	295
特別損失		
固定資産処分損	7	35
減損損失	0	—
災害による損失	—	21
固定資産圧縮損	3	213
訴訟関連損失	934	—
為替差損	168	—
投資有価証券売却損	65	—
その他	37	—
特別損失合計	1,217	269
税金等調整前中間純利益	4,118	4,197
法人税、住民税及び事業税	1,382	1,592
法人税等調整額	13	△78
法人税等合計	1,395	1,513
中間純利益	2,722	2,683
(内訳)		
親会社株主に帰属する中間純利益	2,709	2,814
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	13	△131

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	398	3,157
繰延ヘッジ損益	△372	183
為替換算調整勘定	932	△812
退職給付に係る調整額	△3	△10
その他の包括利益合計	955	2,517
中間包括利益	3,678	5,201
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	3,556	5,443
非支配株主に係る中間包括利益	121	△241

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	4,118	4,197
減価償却費	1,216	1,434
のれん償却額	—	51
減損損失	0	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△69
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	22	78
その他の引当金の増減額(△は減少)	94	95
受取利息及び受取配当金	△133	△212
支払利息	339	591
固定資産圧縮損	3	213
訴訟関連損失	934	—
国庫補助金等収入	△3	△216
売上債権の増減額(△は増加)	△349	△6,054
その他の債権の増減額(△は増加)	2,203	3,639
棚卸資産の増減額(△は増加)	△5,930	△10,813
仕入債務の増減額(△は減少)	2,975	3,141
その他の債務の増減額(△は減少)	△2,880	△2,176
その他	215	△45
小計	2,826	△6,143
利息及び配当金の受取額	130	196
利息の支払額	△351	△584
国庫補助金等の受取額	3	99
法人税等の支払額	△507	△2,206
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,101	△8,639
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△2,461	△2,156
固定資産の売却による収入	3	96
投資有価証券の取得による支出	△158	△8
投資有価証券の売却による収入	43	19
非連結子会社株式の取得による支出	△954	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,624	—
貸付けによる支出	△143	△47
貸付金の回収による収入	—	11
関係会社の清算による収入	89	—
建設協力金の支払による支出	—	△939
その他	△1	△28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,206	△3,053
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△66	11,019
コマーシャル・ペーパーの純増減額(△は減少)	—	5,000
長期借入れによる収入	6,354	2,471
長期借入金の返済による支出	△1,682	△4,594
非支配株主からの払込みによる収入	39	—
配当金の支払額	△1,191	△1,554
その他	△78	△109
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,374	12,232
現金及び現金同等物に係る換算差額	196	17
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	465	557
現金及び現金同等物の期首残高	8,452	7,514
現金及び現金同等物の中間期末残高	8,917	8,071

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

Ⅰ 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	水産事業	生鮮事業	食品事業	物流 サービス	その他	合計	調整額 (注1)	中間連結 損益及び 包括利益計 算書計上額 (注2)
売上高								
外部顧客への売上高	74,501	32,051	32,906	838	267	140,565	—	140,565
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,190	3,780	3,856	651	794	22,273	△22,273	—
計	87,691	35,832	36,762	1,489	1,061	162,838	△22,273	140,565
セグメント利益	3,144	1,645	1,413	151	119	6,475	△1,010	5,464

(注) 1. セグメント利益の調整額1,010百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用921百万円が含まれております。全社費用は、主に親会社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	水産事業	生鮮事業	食品事業	物流 サービス	その他	合計	調整額 (注1)	中間連結 損益及び 包括利益計 算書計上額 (注2)
売上高								
外部顧客への売上高	87,230	34,324	33,325	827	288	155,996	—	155,996
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,169	3,421	3,541	642	906	21,680	△21,680	—
計	100,400	37,745	36,866	1,469	1,195	177,677	△21,680	155,996
セグメント利益	2,667	1,491	1,213	154	147	5,673	△1,118	4,555

(注) 1. セグメント利益の調整額1,118百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用1,031百万円が含まれております。全社費用は、主に親会社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

(製品の自主回収)

当社が販売しておりますレトルトパウチ製品「ライトツナまぐろ水煮フレーク」「ライトツナまぐろ油漬フレーク」の一部に、膨張している製品があることが判明いたしました。原因につきましては現在究明を急いでおりますが、万全を期するため当該製品を自主回収することになりました。なお、業績への影響については現在精査中です。